

日本アニメ・マンガ専門学校

学校自己評価報告
(平成29年度)

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善にかつようされているか

5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 教育理念・目標

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|---|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 4 |
| 学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか | 4 |
| 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか | 4 |
| 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- ・ 昨年同様、街中活性助成事業として、古町5番町商店街振興組合と共同で「がたふえす」での「萌えキャラプロジェクト」を実施。商店街の活性化に大きく貢献し、新潟市からの評価も非常に高い結果となった。これらは職業実践型授業として取り組み、企業、商店街の商品企画販売支援活動を高めた成果。
- ・ 例年同様、豊かな人間性を養うために地域行事への参加や、ボランティア活動などを実施している。特に小中学校の職業体験授業などのボランティア活動を多く実施した。また新潟市アニメ・マンガ関連の施設にも在校生、卒業生を多く派遣した。
- ・ 国際的な視野を養うため、海外研修を必修化している。平成29年度も学生作品即売会を通しての交流、収益金を現地慈善団体へ寄付。
- ・ 教育理念や教育目標（目指すべき職業人、社会人への目標）は学生には入学当初に配布する「学生の手引き」に記載し、新入生オリエンテーションにて周知している。また、保護者には保護者会にて周知を図り、欠席者に対しては資料を送付し周知を図っている。また、保護者説明会を実施し、ご家庭との連携にも注力している。

(3) 課題と改善策

特になし。

2. 学校運営

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|---|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3 |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3 |
| 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか | 4 |
| 人事、給与に関する規定等は整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 運営方針は部門長によって作成されるビジョンシートに明記され、全教職員に周知される。
- 学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。
- 校内においては職員会議を定期的に行い、必要に応じて重要事項の協議あるいは周知を図っており、組織としての意志決定を効率的に行っている。
- 人事、給与については法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教育活動等については当校 Web サイト、ブログ等により情報公開に努めている。
- 情報システムとしては、学籍管理システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。また、iPad を活用し資料等のデジタル化を進めエコ・効率化に努めている。

(3) 課題と改善策

- 平成 28 年度同様、ホームページの情報更新について、業者委託部分の更新がタイムリーな情報発信につながらなかったため、管理業者との連携を強化する。

3. 教育活動

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|---|----|
| 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか | 3 |
| 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| 職員の能力開発のための研修などが行われているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 教育課程の編成・実施は教育理念、教育目標を踏まえた上で、学科長を中心に策定される。明確に定められた学科教育目標に沿って体系的に編成されている。
- 教員の資質向上については、専任講師は法人の資格取得奨励制度の活用による専門分野の資格取得を含め、研修会、学会への参加等を奨励している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。
- デジタルマンガ企業と教育連携を締結し学生の教育内容・活躍フィールドの拡大を行った。
- 大光銀行とマンガを活用した包括連携協定を締結し、産学連携事業を強化し、学生への実践的な教育訓練機会の創出が図れた。

(3) 課題と改善策

特になし。

4. 学修成果

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格取得率の向上が図られているか | 4 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 就職担当スタッフがハローワーク、業界、卒業生等との連携を図り、求人獲得、就職支援を行っており、希望就職率 100%を達成している。
- 入学時からのビジネスマナー授業を基礎に、リクルートマナー、スーツ、メイクなども外部企業からの講師を迎え、全員に施している。
- 卒業生の成果についても学校ホームページなどで告知する他、授業やイベントなどにゲストをして招聘し、学校、在校生との連携を強くしている。
- ライフプランの作成を 2 年間の指導の完結としている。作家などの個人事業を展開する学生には税務署の指導員による「租税講座」「確定申告講座」を実施するなど、卒業後必要と思われる内容を持たせている。
- 検定試験合格率については、コミュニケーション検定が全国平均合格者を若干下回る結果となってしまったが、office 系の検定は合格率 100%、その他の検定も全国平均合格者を大きく上回る結果となった。

(3) 課題と改善策

年々、心に病を持った学生が増加しており、退学抑止の難易度が上がっている。退学抑止対象に充てる時間とそれ以外の学生に充てる時間のバランスに不均衡が生じてしまっている。改善策としては、外部カウンセラーによるスクールカウンセリングの活用を広げていく。

5. 学生支援

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|--|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 4 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 各クラスに担任、副担任をおいており、日々の進路指導にあたっている。定期的に行われる個別相談を実施。長期休暇の間も定期的にメールでの活動報告日を設定し生活状況の把握に努めている。
- 財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度、新潟リハビリテーション病院での院内対面カウンセリング制度を整備し、学生相談に対する体制を整備している。また、保護者に対してもカウンセリングを勧め、「病気」に対する理解を得ることも実施している。
- 経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。
- 学生本人、保護者、担任の三者が揃うことを前提にした保護者会を年3回（2年次3月、8月、1年次4月）実施している。
- 卒業生に対しても外部企業、出版社などからの仕事を発注している。また、卒業後も資料館の無料利用を可能にしている。

(3) 課題と改善策

特になし。

6. 教育環境

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 防災に対する体制は整備されているか | 3 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 法人が所有する研修施設を活用し、コミュニケーション訓練合宿、制作合宿として実施している。施設内容についても学生への事後アンケートでも特に食事の面で好評を得ている。
- 異文化研修という海外研修を必修としている。海外文化や語学、また渡航手段などについても学ぶ機会としている。
- 避難救急セットを学生に配布、教室内に設置し緊急時の対策としている。

(3) 課題と改善策

AEDの定期講習を行い、緊急時にすべての職員が対応できるようにする必要がある。

7. 学生の受入れ募集

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|-----------------------------|----|
| 学生募集活動は適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 全国からの入学者が増えてきており、本校で実施する学校説明会と同時に県外での体験授業を主にした学校説明会を実施した。
- 卒業生の成果は、パンフレットや Web サイトへの掲載によって公開されている。

(3) 課題と改善策

特になし。

8. 財務

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|--------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。

(3) 課題と改善策

特になし。

※特記事項

学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|-------------------------------|----|
| 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 法令、設置基準の遵守について、所轄官庁との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、所轄官庁等からの通知についても法人本部を通じて学校に通知され、教職員に周知されている。
- 個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生の手引きに記載され学生へも周知されている。
- 新ホームページにて自己評価を公開している。

(3) 課題と改善策

特になし。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

| 評価項目 | 評価 |
|---------------------------------|----|
| 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか | 4 |

■学校関係者評価委員会 意見まとめ

(2) 現状

- 新潟市のイベント「がたふえす」の際には校舎を開放し、アニメーションの制作行程の紹介、海外校とのコラボ作品展示、職業啓蒙ブース等を実施し、これからの業界を牽引する若手人財への就業教育と中高年齢層に対しての、業界理解を深めた。
- ボランティア活動の内容によっては、授業内容との単位互換が認められる場合は公欠としている。
- 地域小中学校、公民館などでの各科の専門性を活かした講座などに講師・学生を多く派遣した。
- 中学生のキャリア教育の一環として、上級学校訪問にて職業啓蒙、職業体験を実施し、年間約400名の中学生を受け入れた。

(3) 課題と改善策

特になし。